

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

技術力の維持・向上にむけて

運転員による技術技能競技大会

運転員の技術・技能の向上にむけては、これまで中央制御室を模擬した操作盤を使い、機器の故障や事故が発生した際の対応力について競い合う大会を実施してきました。

今回、新たな取組みとして、現場巡視を主に行う15名の運転員を対象に、現場での機器操作などを安全かつ的確にできるかを確認する競技大会を9月7日から開催しています。

このような機会を通じて現場操作の力量の維持・向上を図り、燃料の安定冷却の継続に努めてまいります。

起動した空調機を確認



今大会の課題であった空調機の切替では、一つひとつの手順に沿って的確に操作したり、起動後の空調機の声、振動等に異常がないかを確認しました。

原子力安全を第一に考え、機器を操作する際は手順を順守するとともに、潜在的なリスクについても感度を高めていきます。



運転員の安住亮佑

夜間を想定した直営技術力強化訓練

福島第一原子力発電所事故時の教訓を踏まえて、燃料冷却に必要な設備が使えなくなった際に夜間や高線量などの厳しい環境下であっても、所員自らの手で設備を復旧できるよう、訓練を重ねています。

今回は、設備に電源を供給するために必要な仮設ケーブル接続（ケーブルの加工等）を視界に制限のある夜間でも行えるよう、暗所を模擬した訓練を実施しました（9月5～7日で計23名参加）。



暗所では、仮設照明やヘッドライト等で視界を部分的に確保した中での作業となります。訓練では作業者の指先や周囲の安全を確認するとともに、班内の意思疎通を確実にすることを心がけました。

これからも訓練を繰り返し、いかなる環境下でも対応できる技術力を身につけていきます。



班長として指揮をとった松本裕平

発電所トピックス



放射線災害医療を学ぶ学生が当所を視察しました

全国の大学生が放射線災害発生時の医療対応などを学ぶ「放射線災害医療サマーセミナー2017*」が8月21日から26日にかけて県内で開かれました。

24日には、当所を訪れ、放射性物質を取り扱う区域内で傷病者が発生した際に応急処置室で行う身体の除染方法など、原子力発電所特有の医療対応について理解を深めました（今年で4回目）。

視察では、震災時に当所が福島第一原子力発電所から傷病者を24時間体制で受け入れたことや、復旧活動の対応者への健康サポートを行ったことなどを紹介し、現場での医療や心のケアの必要性をお伝えしました。

参加者からは、放射線災害対応にあたる際の心構え等について多くの熱心な質問がありました。

傷病者受入を行う応急処置室



参加者の声



放射線の知識を正しく持って災害医療にあたるよう、発電所の現場で学んだことを活かしたい。

* 福島県立医科大学、長崎大学、笹川記念保健協力財団の主催。全国の医学部、看護学部、薬学部など保健系の学生が放射能や災害の基礎知識を習得し、放射線災害、保健活動と多職種連携への理解を深めるため、2014年から福島県内で開催している。

地域とともに

今回は
楡葉町です

「楡葉町サマーフェスティバル2017」（9月2日）

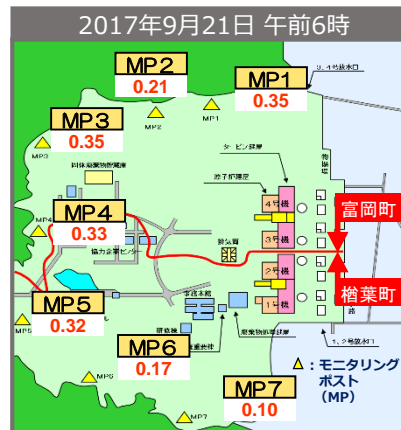
楡葉の夏の風物詩、サマーフェスティバルが天神岬スポーツ公園で開かれました。会場では「マミーすいとん」や福島牛のステーキ、県内の日本酒などが振る舞われ、音楽ライブや約2,000発の花火が会場を盛り上げました。地元の方をはじめ多くの来場者が楡葉の夏を満喫しました。



当社社員も臨時駐車場の整理などをお手伝いさせていただきました。



発電所周辺の空間線量率



参考データ

原子力規制委員会
放射線モニタリング情報より
(2017年9月21日午前6時)

富岡町
文化交流センター
(富岡町役場敷地内)

0.196
マイクロシーベルト毎時

楡葉町
楡葉町役場

0.090
マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。
- プール水温度は約30℃で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、管理上の上限温度（65℃）に達するまで5～7日と評価しています。

| | 1号機 | 2号機 | 3号機 | 4号機 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 燃料の保管数 | 2,534体 | 2,482体 | 2,544体 | 2,516体 |

福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら下記にお問合せ下さい。